

II. 伊勢・三河湾流域における土地の履歴

1. 古代

伊勢・三河湾流域、特に濃尾平野は「尾張太古之図」（養老元年〔717年〕）によると、古代の海岸線は現在の桑名、大垣、岐阜、犬山、小牧、名古屋市緑区を結んだ位置にあり、名古屋市をはじめ現在の濃尾平野の大部分が海に覆われていた。

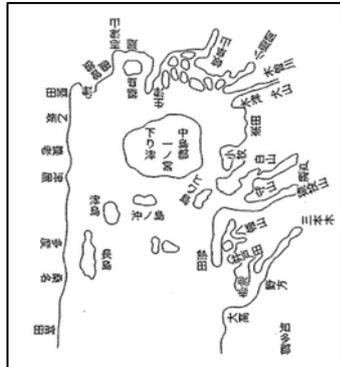


図1：尾張太古之図

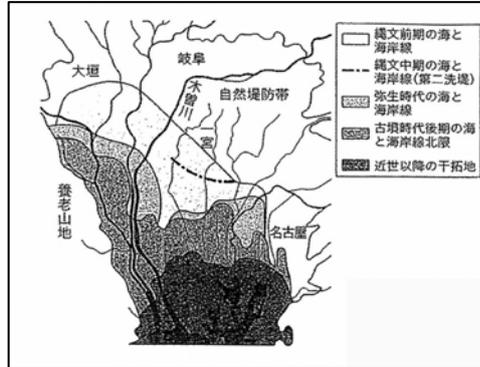


図2：濃尾平野の各時代の推定海岸線

出典：上田篤・中村良夫・樋口忠彦「日本人はどのように国土をつくったか地文学事始」
第11章「仏さまが輪中をつくり、神さまが人々を守った」：田中充子

縄文時代には、海に面した台地や森林の辺縁部、丘陵部、高原・台地を刻む川の流域などで、狩猟や漁撈による生活が行われていたと考えられている。弥生時代になると、平野に突出した山麓や分離丘陵あるいは旧河川の自然堤防上などに定住がはじまり、その下の沖積地で水稻栽培が営まれた。弥生時代中期頃になると、技術の進歩とともに水稻栽培の安定性が増して、次第に耕地も拡大していった¹ことが遺跡分布図から推測される。

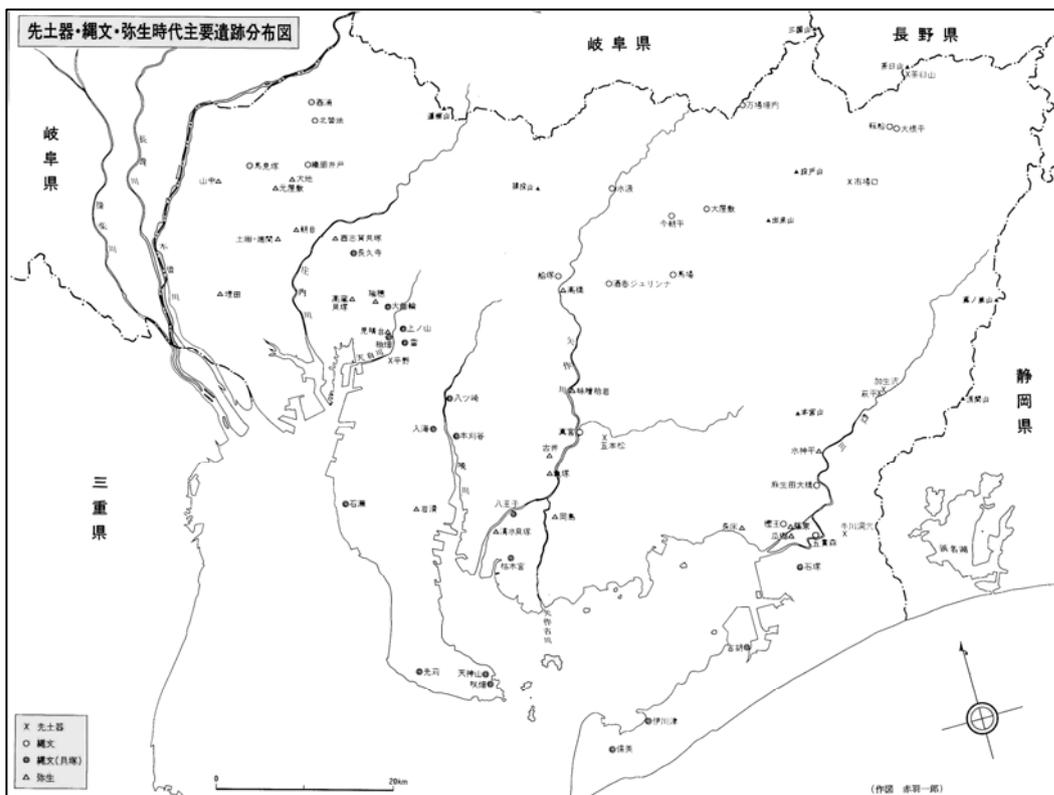


図3：先土器・縄文・弥生時代主要遺跡分布図

出典：角川日本地名大事典編纂委員会「角川日本地名大事典 23 愛知県」

¹ 日本地誌研究所「日本地誌 第9巻 中部地方総論・新潟県」二宮書店, 1972

2. 中世

古代から中世にかけて貴族や社寺等により平野部や盆地を中心に、荘園開発が盛んに行われ、庄内川右岸に立地する荘園では河川を取り込んだ開発が進んだ経緯が読みとれる。

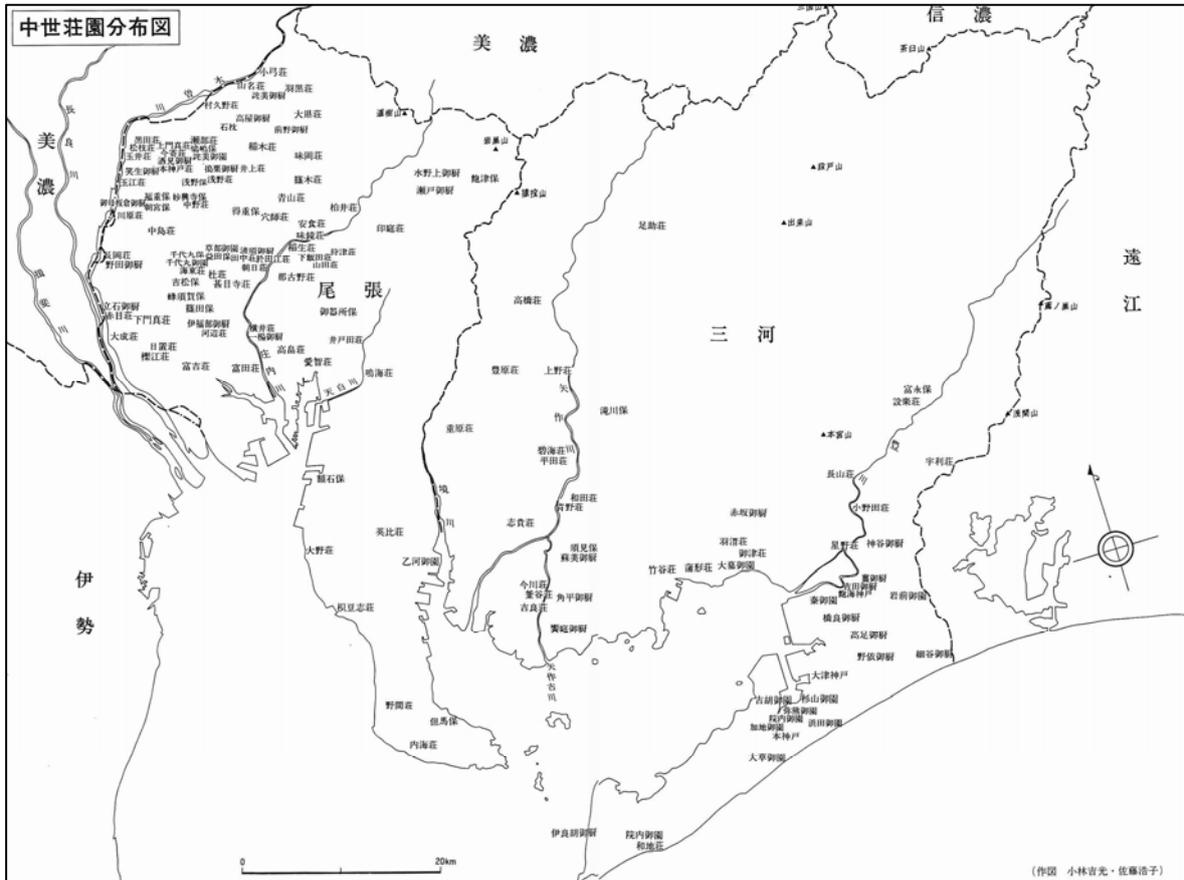


図4：中世荘園分布図

出典：角川日本地名大辞典編纂委員会「角川日本地名大辞典 23 愛知県」

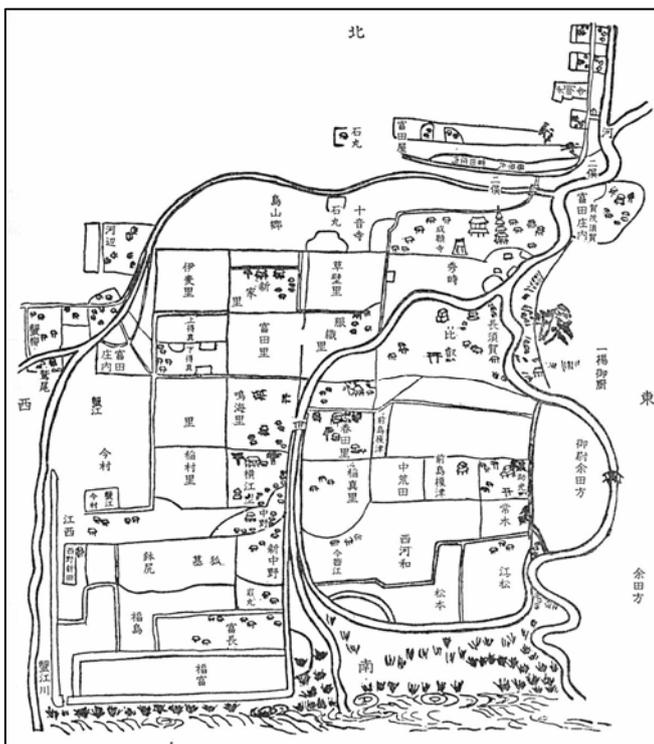


図5：庄内川右岸に立地する荘園

出典：日本地誌研究所「日本地誌 第12巻 愛知県・岐阜県」二宮書店, 1969

3. 近世

中世から近世にかけて街道や海上交通が整備されるようになると、名古屋の城下町は商業都市として発達し、城下町周辺部には産業都市が急速に発達した。また東海道をはじめとする街道沿いには宿場が設けられ、旅籠、木賃宿、茶屋、商店などが建ち並び宿場町として発達した。

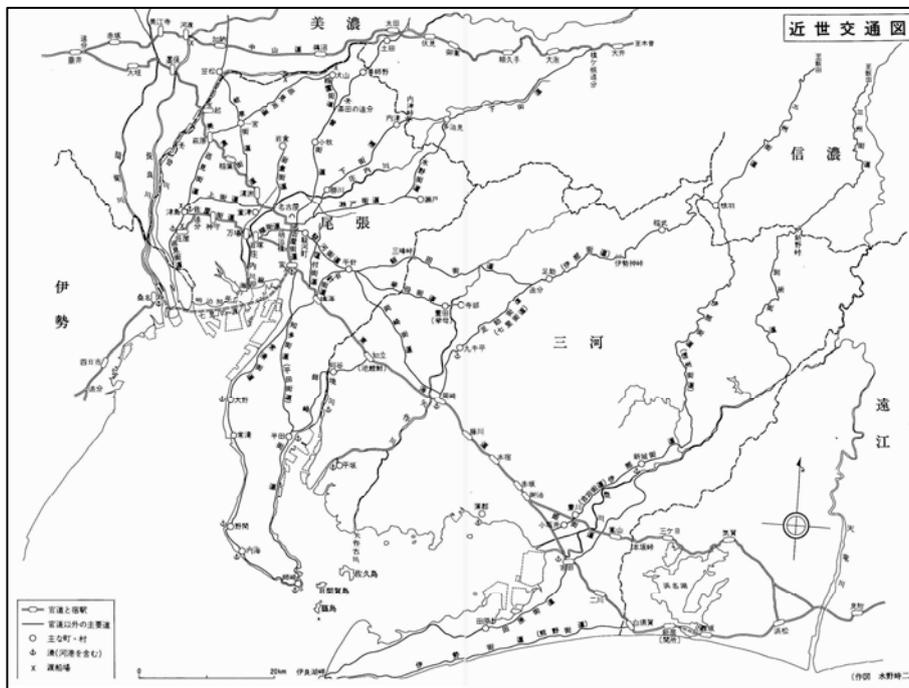


図6：近世主要交通図（愛知県）

出典：角川日本地名大辞典編纂委員会「角川日本地名大辞典 23 愛知県」

一方、伊勢国では、都と伊勢神宮を結ぶ陸運が発達し、中世より発達した伊勢湾岸の海運とともに交通網が整備されたことにより、宗教都市として多くの参拝客で賑わった。

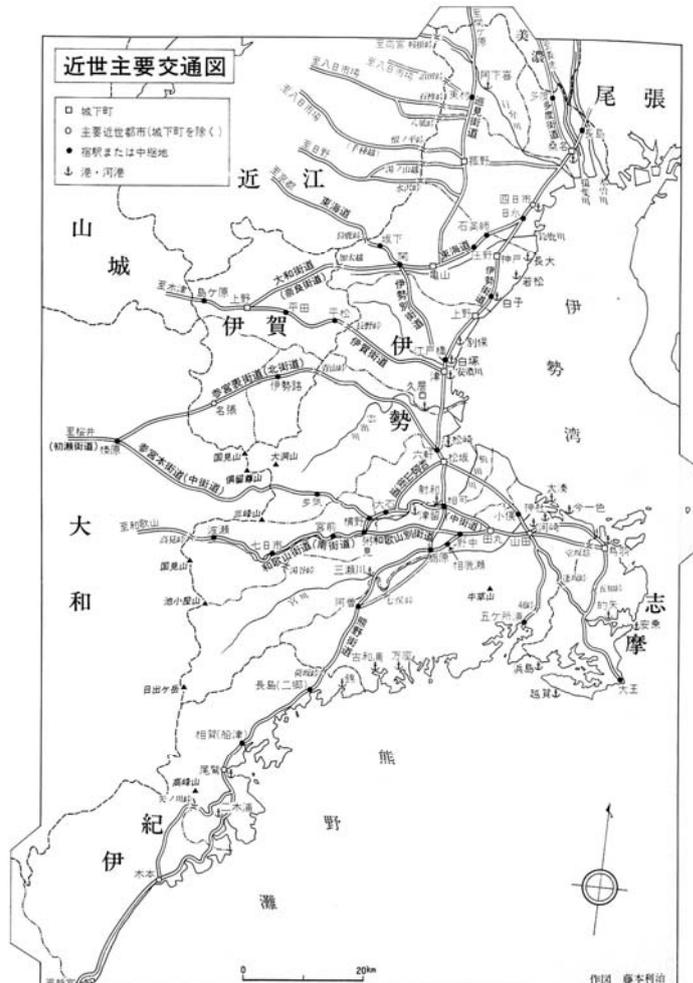


図7：近世主要交通図（三重県）

出典：中部地方建設局「木曾文庫 VOL. 19」

一方で河川下流域や沿岸部では、新田開発が盛んに行われた。

木曾三川下流域は、水害から守るために集落と耕地を取り囲んだ堤防「輪中」を築いた地域として広く知られている。輪中は岐阜市、大垣市、羽島市、名古屋市西部などに分布し、南北約 50km、東西約 20km の逆三角形をした広大な地域に、明治初期には約 80 の輪中が形成されたといわれ²、輪中地域では、開発面積が増えれば増えるほど遊水地や河道が狭められ、さらに水害が増すといった悪循環を引き起こし、水防体制を組織するなどまさに水との戦いであった。

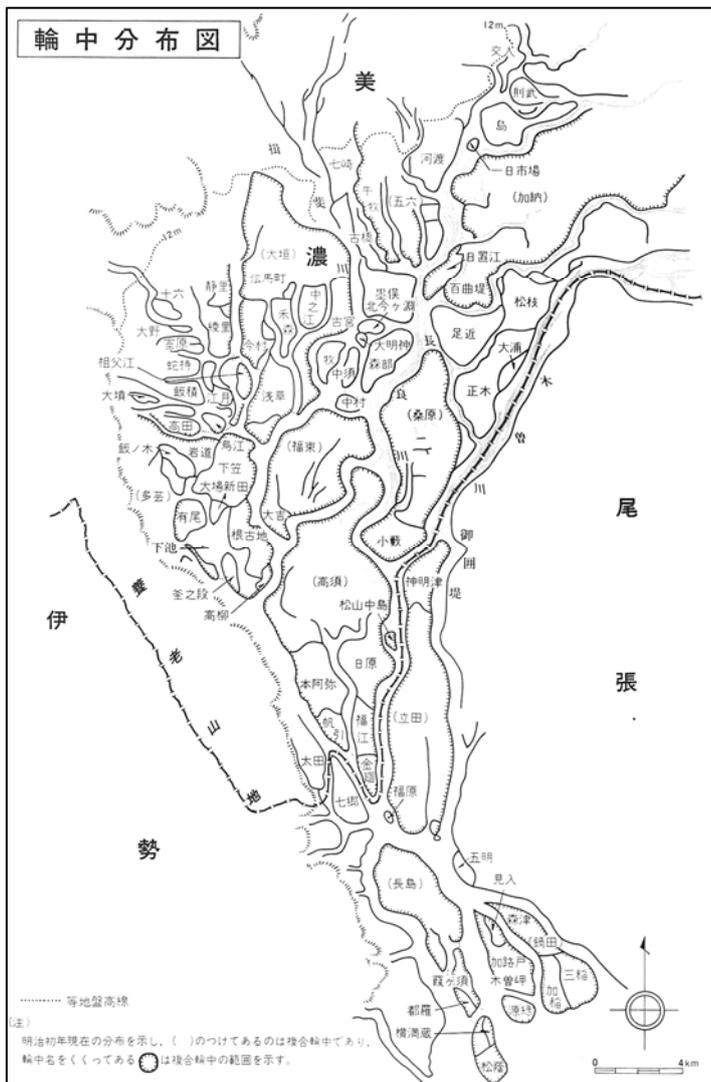


図 8：輪中分布図

出典：角川日本地名大辞典編纂委員会
「角川日本地名大辞典 21 岐阜県」

沿岸域では、海面干拓が盛んに行われた。名古屋市熱田区、港区、中川区、南区の一部、弥富町、十四山村、飛島村、三重県の木曾岬町の区域は、すべて江戸時代の干拓によって形成され、干拓面積は約 5,000ha にのぼった。

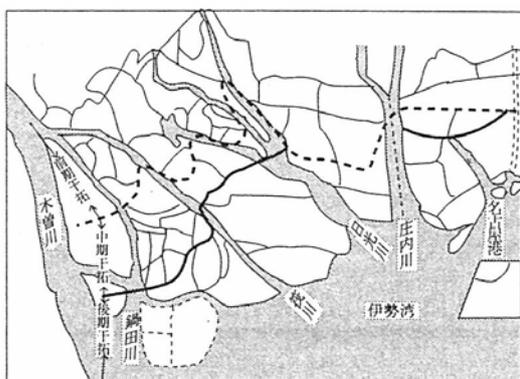


図 9：伊勢湾の開拓

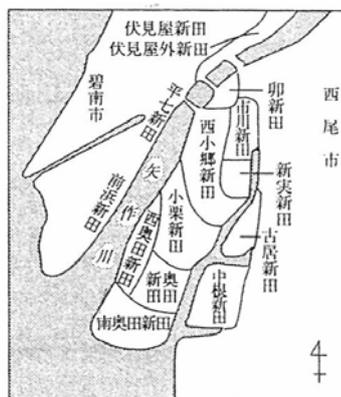


図 10：矢作川下流域の開拓

出典：農山漁村文化協会「人づくり風土記 23 ふるさとの人と知恵 愛知」

² 上田篤・中村良夫・樋口忠彦「日本人はどのように国土をつくったか地文学事始」

4. 近現代

近代に入り鉄道交通や道路交通が発達するに伴い、自動車産業をはじめとする製造業が発展し、名古屋を中心とした大都市圏を形成するに至った。また東三河地域は、昭和 39 年（1964 年）に工業整備特別地域整備促進法に基づく工業整備特別地域の指定などによる製造業の発展に伴い、開発が進行した。

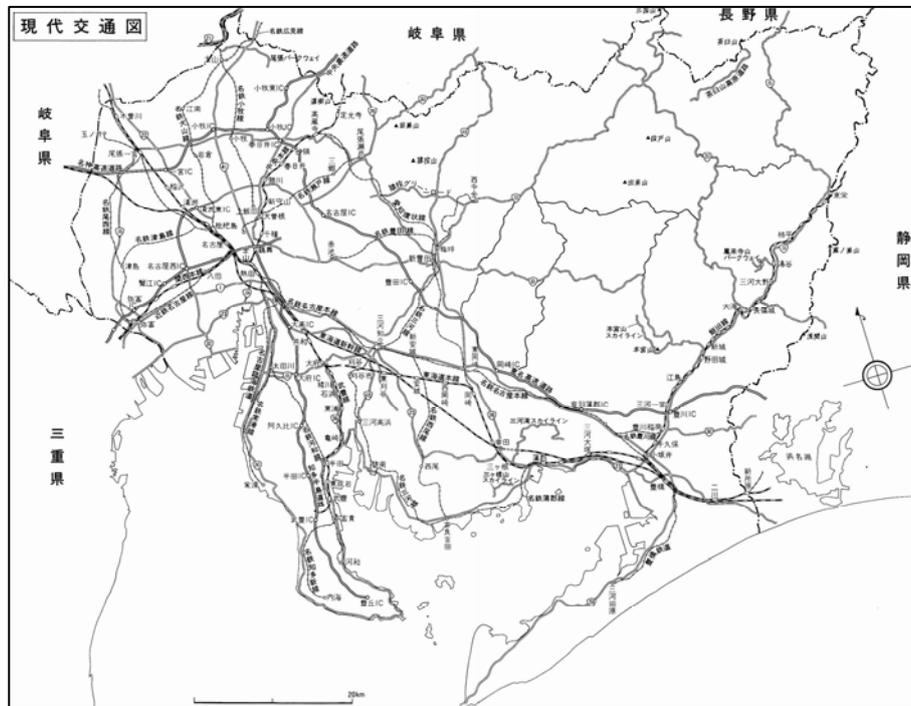


図 11：現代主要交通図（愛知県）

出典：角川日本地名大事典編纂委員会「角川日本地名大事典 23 愛知県」

一方で、広大なゼロメートル地帯に住宅地が密集するため高潮・洪水に対して脆弱な地域であり、昭和 34 年（1959 年）9 月に襲来した伊勢湾台風では死者 4 千人を超える被害が出て、沿岸の防災が重要な施策となった。

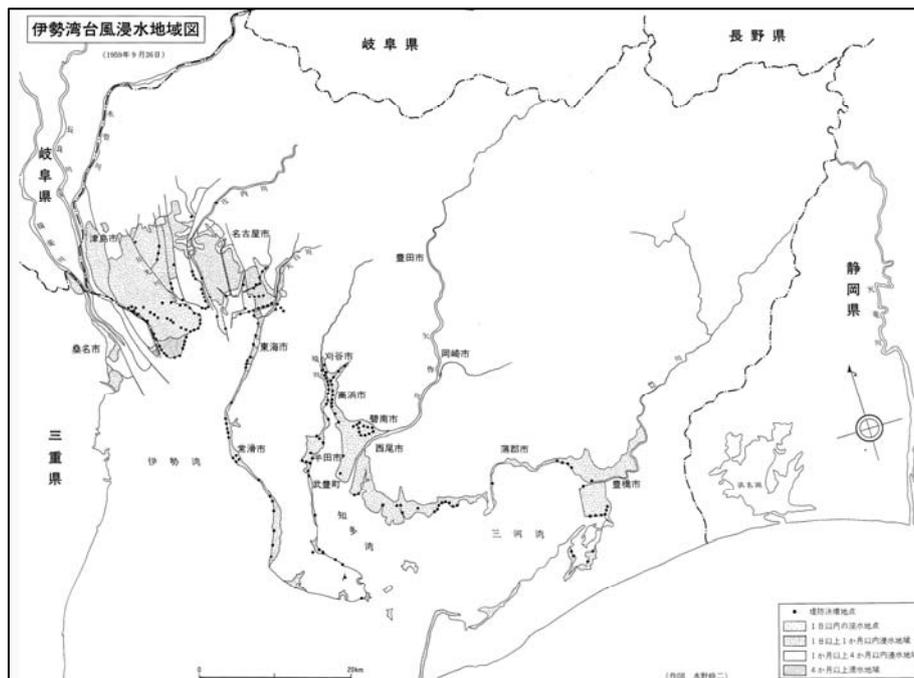


図 12：伊勢湾台風浸水地域図

出典：角川日本地名大事典編纂委員会「角川日本地名大事典 23 愛知」